

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 1 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやか グループホーム みのかも		
所在地	美濃加茂市下米田町東柵井66-1 (電話) 0574-27-5471		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年12月21日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 27 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 8 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.36 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 27 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2		6 名	
要介護3	4 名	要介護4		5 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86.3 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人 厚生会 木澤記念病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「笑う門に福来る」をモットーに管理者と職員で「利用者と地域にとって安心できる施設」という理念を作った。利用者、家族、職員が家で過ごしているように、遠慮なく安心できる暮らしを願い、日々の介護に取り組んでいる。朝夕の調理と入浴支援専門の職員が採用されており、介護に専念できることから職員の心身のゆとりにつながっている。敷地内にある観音様への参拝を散歩の楽しみとし、日課になっている。推進会議の開催をきっかけにホームへの理解と地域との関わりが少しずつ広がってきている。グランドボールに出かけたり、リサイクル品を収集所にもって行ったり、利用者が地域参加できる機会を作ってきている。隣接する法人施設の売店利用や行事参加等で変化のある暮らしを支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では特に改善点は無かった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、職員に自己評価の意義と内容を説明し、項目別に職員から意見を聞き取り、自己評価票を作成している。評価は1年の介護サービスの振り返りの機会と考えており、評価結果は運営推進会議で報告し、今後のサービスに反映する予定である。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 近隣に住む老人会長が運営推進会議に参加することで地域の情報が得られたり、利用者が地域社会と関わって生活していくにはどのようにしたら良いか、ホームだけでは困難なテーマ等を検討したり、災害時の避難場所として法人施設を提供するなど、地域と共に支え合う協力体制が図られるようになってきている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 目安箱やノートを設置すると共に、苦情の申し立て窓口・岐阜県運営適正化委員会等についての明示や説明を行っている。家族の本音を引き出して行く為にも、気楽で話しやすい雰囲気づくりへの取り組みに努めていくことを運営面、介護面での課題としている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの野外バーベキュー大会に地域の方を招いたり、しめ縄作りの講師を依頼している。不燃物リサイクル収集やグランドボールに参加し、地域との交流の機会が持てるように積極的に支援している。防災避難訓練には、地域の企業も参加し、警察、自治会、法人と合同で消防署の指導を受けて行っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自に地域密着型としてのホームの理念を管理者、職員と共に検討し、「利用者地域にとって安心して暮らせる施設」という地域を意識した理念が新たにつくりあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を基に、利用者が家で過ごしているように、遠慮や気兼ねが無く、安心して暮らせるための支援が実践できているか、朝夕の申し送りやミーティングで振り返りながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の情報をもらい、不燃物リサイクル収集やグランドボールに参加し、住民と触れ合う機会を支援している。近隣者から畑を借りたり、しめ縄づくりの講師として来訪を受けている。小学校の運動会を見学後、利用者の作った雑巾をお礼に渡した。	○	さらには地域の催しへの利用者の積極的なやホームの催しに地域の方を迎える等、ホーム側から働きかける取り組みの検討が行われているので、実現が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義や内容を職員に説明し、職員からホーム内での様子を細かく聞き取り、項目の記載をした。評価は提供するサービスについて見つめ直す機会とし、運営推進会議で報告したり、ホーム内に掲示しており、日々のケアにおいても活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に老人会長が出席することで、地域と直接情報交換できる場となり、ホームの活動報告や災害時に利用できる法人施設の紹介をする等行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、行政が主催する定例会議が開催され、各種施設、各種サービス機関が集まるネットワーク会議が開催され、各種の情報報告がある。会議後引き続き、包括支援センターの研修会が各部門で開催され、参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の通信で、ホームからの連絡や報告を行うとともに、近況報告書において、最近の様子や介護計画の実施状況を報告している。金銭は家族とも協議し、管理報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情の申し出窓口の説明は、入居時、書面にて説明を行っている。職員は、家族のホーム訪問時や電話連絡時に希望等を聞く働きかけを意識して行っているが、遠慮もあるのか、なかなか表明されない現状がある。	○	家族の気づきも採り入れ、ケアの質を向上させるため、いろいろの機会を通し話やすい環境を作っていきたいとしている管理者や職員の取り組みの継続に期待がもたれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年、法人に特別養護老人ホームの開設があり、大掛かりな職員の異動があったが、研修ときちんとした引継ぎによる利用者の把握とゆとりある対応により、利用者へのダメージを少なくするよう配慮し、混乱はほとんど無かった。今後も法人単位での異動は避けられないが、配慮し対応していく姿勢がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には半年間にわたる研修と各経験年数により分けたクラスの研修があり、計画的に受講している。法人外の研修についても研修案内の情報は多い。又、研修受講に対し法人から費用面での支援等があり、職員は熱意をもって資格取得にも取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人には7つのグループホームがあり、ホーム間での交流、勉強会に参加している。又、地域のネットワーク会議や外部の研修で知り合った方との交流で積極的に意見や情報を交換し、日々のサービスの取り組みに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に住まいを訪ね面接し、本人や家族の気持ちを十分に聴くことを基本としている。入居後、徐々に馴染んでいけるよう1ヶ月の仮プランを立て、ホームが利用者の生活の場所になっていくよう支援している。空室があれば体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「笑う門には福来る」をモットーに、ホームは一つの家族、共に支えあう対等の関係であると、一人ひとりを大切に、一緒に暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、家族からの情報や日常の中での気づきをケース記録に残し、職員会議で共有している。新しい利用者からセンター方式も取り入れ、活用している。	○	更には、利用者全員にセンター方式を取り入れていきたいとする取り組みに期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、情報収集のため、担当者、計画作成者が集まりケアプラン会議を開催し、職員からの意見を広く集め、検討している。家族には、計画の進捗状況を、毎月、個別に通信と共に送付し報告している。	○	介護計画の実施状況の報告を毎月行い、家族からの意見をもらいたいとする取り組みの継続と共に、リハビリ、栄養士等関係する専門職の参加した会議を開催していく計画があり、計画の実現が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各種チェック表を参考に、又、職員間で確認している状況報告を基に、毎月1回の見直し、3ヶ月ごとの評価を行い、計画が現状にあっているかの検討を行っている。又、急な状況の変化があった場合は、家族や関係者と連絡を取り合い、随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時や家族の都合が悪い場合の受診支援を行っている。法人特別養護老人ホームの行事に利用者に参加できるよう送迎を支援している。地区のゲートボールにも利用者を送迎し、地域での交流を支援している。	○	専門家による五感健康法等の健康体操が取り組まれているので、地域住民にも参加してもらおうなど社会資源としてのホームの活かし方に期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医により、週2回の往診がある。希望のかかりつけ医師への受診は家族の通院介助が原則であるが、家族の都合が悪い場合は職員が介助している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアについては、検討、準備の段階であり、最終の看取りは行っていない。入居時にどこまでホームで対応できるか、できないことや限界等を家族に説明している。重度化した場合は、職員や家族、医師とも方針を確かめ合いながら病院への移送時期を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄に関しては、比較的多くの利用者が見守り支援であるが、プライバシーを大切にしたい言葉掛けで行われている。家族に個人情報扱い方を説明し、職員には、新人研修において、守秘義務、接遇、言葉使い等の項目を取り上げ指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、それぞれが自分に合った生活リズムや1日の行動予定の中で暮らしている。職員は、全員で行うことと個別に行うこととを見極め、利用者の状況に合せた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の非常勤職員がおり、職員の配置にゆとりがある。食材は、毎日、職員と希望する利用者1~2人と共に買い物に行っている。配膳、後片付けを利用者と共に行っている。外食は、各ユニット別に、希望別でグループに分かれ、好みの店で楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は、毎日準備されるが、入浴日は原則1日おきとし、ユニットごとに2グループに分け、1対1の入浴支援している。入浴介助専門の非常勤職員がおり、ゆったりした入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	3~5名の利用者が新聞を購読している。趣味の習字の継続等を支援している。ゴミやホコリが気になる利用者には掃除での役割を持ってもらい、疲れないように、仕事量がその人に合っているか見守りながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人敷地内にある観音様への参拝を兼ねた散歩は天候がよければ毎日行われ、外出は車椅子の利用者も参加している。巡回図書のパスまでの外出支援や特別養護老人ホームでの売店開催日の外出支援と多くの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置している。利用者の部屋のサッシは自由に開閉できるが、周囲にはベランダがあり、最終的に外へ出る場合は職員が確認できる。職員は、外出傾向のある利用者を把握し、配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	救急救命講習会の訓練を全職員が受講している。年2回、消防、地域住民、最寄の企業が参加する法人合同の防災避難訓練がある。自治会の総会で、法人の災害時の取り組みを説明でき、協力を得ている。	○	現在行われている防災避難訓練は、法人全体で行われている。ホーム単独でシュミレーションした防災避難訓練の取り組みも期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶はいつでも飲めるように準備されている。1日700～800ccを目安にし、水分制限指示のある利用者の把握や体重の測定で確認を行っている。法人の管理栄養士が立てた献立で栄養バランスが考えられ、摂取量等を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓テーブルに集まり共に作品を作ったり、居室に戻り本を読んだり、ゆったりとしたソファでテレビを見たり、新聞を読む利用者の姿があった。生活空間は広く、センスよく飾られ、落ち着いたある明るい空間となっている。玄関先にガーデン用テーブルセットがあり、季節がよいと、ティータイム等をその場所で楽しんでいる。	○	玄関先にテーブルセットがあり、活用はあるものの直射日光をさえぎるものが無く、利用しにくい場面もある。日よけパラソル等の用意があると、更に、活用の機会が増えることが予測でき、検討が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力を依頼し、本人の大切な品、思い出の作品、小さい仏壇、趣味の備品等本人の思いの品が搬入され、その人らしい部屋になってきている。南北での明るさの差はあるが、窓は広く、部屋の採光はよい。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。